

加古川扇状地ゾーン

加古川の水を活かした歴史が息づく水利ネットワーク

県下最長の加古川が形成する沖積平野に位置し、水量豊富な加古川からの水路整備とため池の築造により開拓された地域です。

全体的に平坦な地形で用水を有効に活用するため、多くのため池が造られてきました。ゾーン北部は農業の盛んな地域が広がっており、多くのため池は稲美町との境界付近に分布しています。また、ゾーン南部では都市化が進んでいますが、今も街中にため池が見られるのもこのゾーンの特徴です。

さらに、五ヶ井堰や新井水路に代表される歴史的な水利施設が今も利用されています。



写真

ゾーンの歴史

この地域は古くから稲作が行われていたことが、古墳や条里制跡で知ることができます。地域を代表する水利施設の五ヶ井堰は、推古14年(607)聖徳太子によって造られたとされる日本最古の取水施設です。これは加古川の中洲を利用して堰から水を引き、東岸一帯200haを潤したと伝えられています。

江戸時代に入って、承応3年(1654)の大干ばつでは当地域一帯は甚大な被害を受けましたが、加古川から取水している五ヶ井郷ではほとんど被害がありませんでした。このことから、古宮組(播磨町)の大庄屋今里伝兵衛は、農業用水路の開削を試み、明暦2年(1656)に平松井堰から延長約13kmの用水路を完成させています。この結果約600haの田畑が潤い、新井用水と呼ばれ今日もお利用されています。

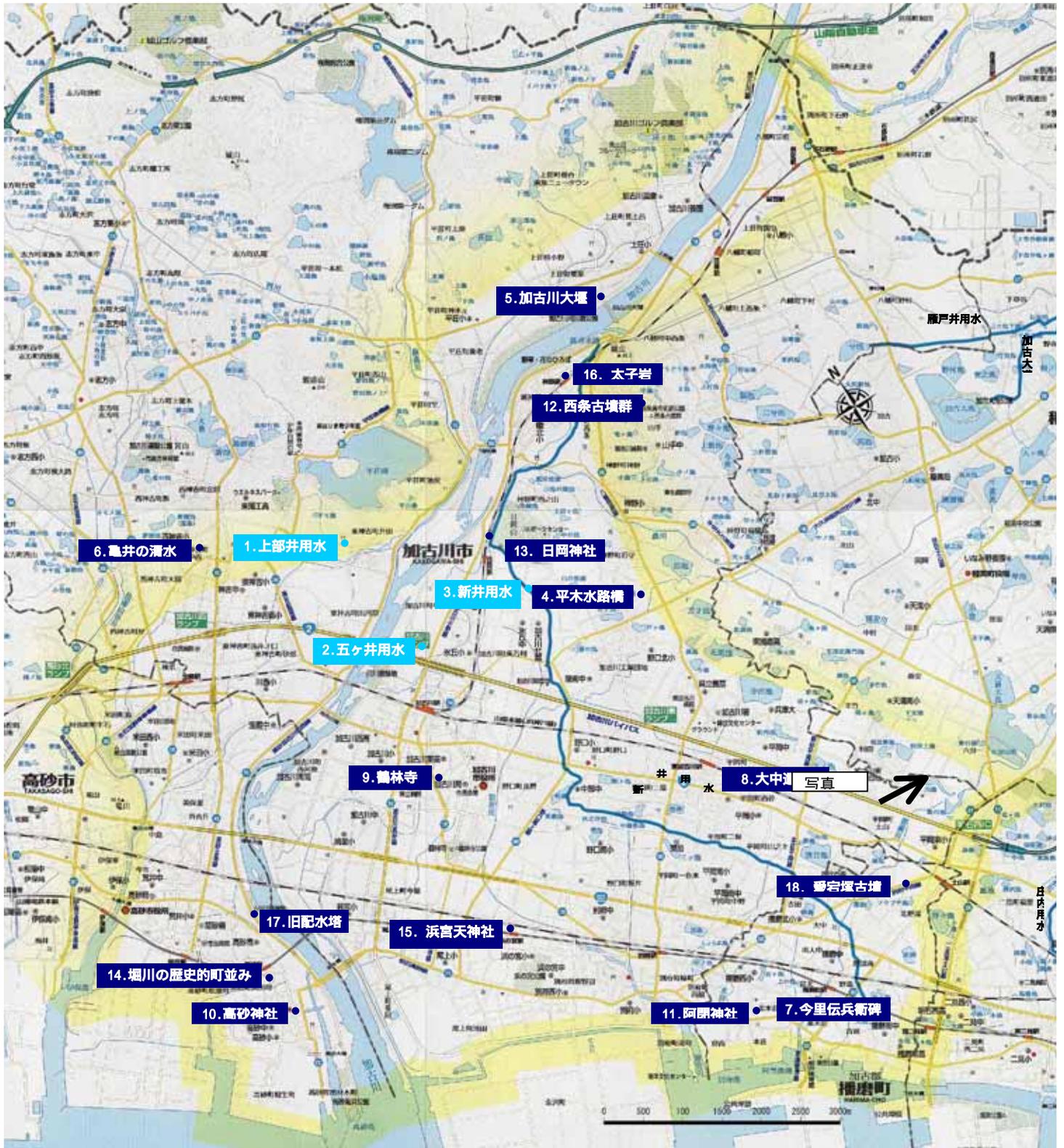
その後、寺田用水をはじめ多くの水路の改修やため池の築造がなされました。



五ヶ井堰



寺田池



ゾーンの主な見どころ

	資源 (展示物)	所在地	概要
1	うわべい 上部井用水		加古川下流低地の河川の乱流と氾濫のため開発が遅れていたが、慶長5年(1600年)姫路城主、池田輝政によって進められ、60年後の松平直矩の時代に完成した井堰と伝えられる。加古川右岸三角州の主要用水として、昭和の初期には730haの水田を潤していたとされている。
2	五ヶ井用水		聖徳太子によって造られたという我が国最古の取水施設が元で、北条之郷、加古之庄、今福庄、長田庄、雁南庄の用水となり五ヶ井用水と呼ばれている。
3	しんゆ 新井用水		江戸時代、古宮組(現播磨町)の大庄屋今里伝兵衛が、藩主榊原忠次に願い出て明暦元年(1655年)着工、起伏の多い地形条件ながら延長14kmをわずか1年余りで完成、工事に動員された人数は延べ16万4千人にも及ぶ。まさに藩をあげての一大事業であった。
4	平木水路橋	加古川市野口町水足	淡河川山田川疏水事業の一環として1915(大正4)年に建設された石造アーチ式レンガ積の水路橋で、長さ25.83m、スパン15.24mである。中央に英字のプレートがあり、「HIRAKI AQUEDUCT BUILD SEPT 1915」と書かれている。建造後、1915~1950の35年間にわたって共用された。
5	加古川大堰	左岸：加古川市八幡町中西条 右岸：加古川市上荘町葉栗	加古川河口から約12kmの地点に位置する加古川大堰は、洪水の安全な流下のための疎通能力の確保、水道水、工業用水等逼迫する水需要への対応、流水の正常な機能の維持等を図るため、昭和55年度から建設に着手し総事業費約400億円を費やして昭和63年度に完成した可動堰。
6	亀井の清水	加古川市東神吉町	今では道路下に井戸枠を移し、洗濯用・灌漑用水として使われている。非常に冷たい水で、普通の水よりも1割程度軽いといわれ、下流には魚も住めないという伝説が残っている。
7	今里伝兵衛 碑	播磨町古宮	明暦2年(1656)新井水路を開削し、近隣24ヶ村を干ばつ飢饉から救った古宮組大庄屋、今里伝兵衛の顕彰碑。昭和3年(1928)従五位が追贈されたのを記念して、播磨町の中央公民館横に建てられた。
8	大中遺跡	播磨町大中	大中遺跡は、昭和37年6月に考古学同好グループの播磨中学校生徒3人によって発見された。大中遺跡は海拔13mの洪積世台地の南端にあって、加古川の氾濫源の東端に位置している。弥生時代中期から古墳時代中期にかけての代表的な遺跡で、約44,000㎡の範囲に多くの住居跡が残されている。
9	鶴林寺	加古川市加古川町北在家	聖徳太子が16歳の時、仏教を広めるために建立したとされる。国宝・重要文化財が数多くあり、播磨の法隆寺とも呼ばれている。平安時代の壁画が見つかった県下最古の木造建築物、国宝「太子堂」や重要文化財「聖観音立像」など、多くの仏教美術が残されている。
10	高砂神社	高砂市高砂町	謡曲「高砂」の発祥の地。境内には結納に欠かせない「尉と姥」の由来である「相生の松」があり、人々の信仰を集めている。

11	あえ 阿閑神社	加古郡播磨町	一間社春日造、檜皮葺の同形、同規模の本殿が南北線上に並んでおり、特に四社が軒を近接して並立する配置は他に類似例が少ないものである。
12	西条古墳群	加古川市八幡町	加古川流域に成立した古墳群の一つであり、洪積台地端に位置している。古墳群は、行者塚古墳（前方後円墳、全長 100m）人塚古墳（帆立貝式古墳、全長約 65m）尼塚古墳（帆立貝式古墳、全長 52m）の 3 基の大型古墳を中心に数十基の小古墳で構成されていたが、多くは現在消滅してしまった。
13	日岡神社	加古川市加古川町	古来より安産の神様として播磨地域内外から多くのお参りがある。
14	堀川の歴史的町並み	高砂市高砂町	加古川舟運の集積地として栄え、堀割り運河と町並みが一部残る。
15	浜宮天神社	加古川市尾上町	菅原道真公を祀っており、朱ぬりの新しい社殿が美しく、菅公お手植の松は堂々とした貫禄を持っている。
16	太子岩	加古川市神野町西条	聖徳太子が鶴林寺領の水利を進めるための基準にしたと伝えられる。現在は神野町西条にある上ミの太子岩を一般に太子岩と呼び、日岡神社近くの下モの太子岩は井溝の中にある。1996 年には銘板が設けられた。
17	旧配水塔	高砂市高砂町	大正 12 年に旧加古郡高砂町が初めて上水道を敷設したとき建てられた。翌年 1 に給水を始め、昭和 41 に現役を引退。異人館風のトンガリ屋根を持つタンクで高さは約 33m。市の水道敷設のシンボルとして保存されている。
18	愛宕塚古墳	播磨町北野添	播磨町唯一の古墳時代中期の周壕を備えた円墳。その名前は墳頂部に愛宕権現の祠がまつられていることに由来している。



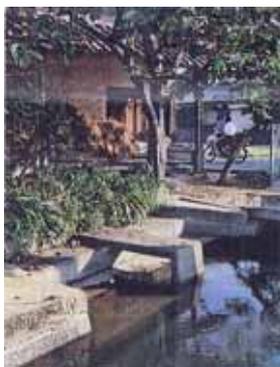
今里伝兵衛碑



太子岩



平木水路橋



新井水路
(洗い場)



旧配水塔